

心の ともしび



No.819 2026年7月

「居場所」

暗いと不平を言うよりも
すすんであかりをつけましょう



いつもの場所

竹内修一 神父
たけうち おさむ

でしよう。

自分には帰る家がある——これは当たり前のように、実はたいへん仕合せなことなのではないか、と思います。なぜならそこは、自分が心置きなく身心ともにくつろぐことのできる場所だからです。さらに家庭、学校、職場のそれぞれに自分の居場所があるなら、それはまた、私たちにとって慰めとなります。

私たちには、なんとなく落ち着ける自分の氣に入った場所があるのではないのでしょうか。例えば、あの教室のあの席、あの店のあのカウンター、あの公園のあのベンチなど。また家庭の食卓では、たいてい自分の席が決まっているのではないのでしょうか。自分にとって居心地のいい場所、そこにささやかな仕合せがあります。

イエスにとって、それはいったいどのような場所だったのでしょうか。公生活中、彼は、絶えず動き回っていました。

「狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない」(マタイ8・20)と言われるほどです。

彼はいったい、いつどこで休んでいたの

イエスは、ゲッセマネでの激しい苦しみの中でこう父に祈ります。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」(マタイ26・39)。しかしそこは、同時にまた、彼にとってはいつもの場所でした。

安らぎの家——それは、苦しみをとおして与えられるのでしょうか。そうなのかもしれません。しかし同時にまた、そこには喜びも確かにあります。生涯、神の家をすまいとすることの出来る人は、仕合せです。

「『神の家に行こう』と言われて、わたしの心は喜びにはずんだ」

(参 詩122・1)

穏やかな明るさです。



ホームページ (<https://www.tomoshibi.or.jp>)



【心のともしび運動 ご支援のお願い】

心のともしび運動は、世界の平和と一人ひとりの真の幸せを願って、ラジオ、機関紙、インターネットを通じて神の言葉を伝えています。この活動は、すべて援助会員の皆様からの献金によって運営されています。人として人のために生きる力の泉となる神の言葉を一人でも多くの方に伝えられるよう、ぜひ、援助会員になってご支援ください。住所、氏名をお知らせください。申し込み用紙をお送りさせていただきます。

仮事務所 連絡先 (電話：075-211-9341 FAX：075-211-9343)

〒602-0934 京都市上京区一条殿町502-1 カトリック西陣教会青年会館内 心のともしび運動YBU本部